



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和7年(2025年)1月8日
国立市立国立第二小学校
校長 内田 辰彦

巳年のスタート

校長 内田 辰彦

年が明けて、新たな1年が始まります。令和7年、2025年のスタートです。今年は干支では巳年(へび年)です。巳年には、再生や新たな出発などの意味があるそうです。昨年末に60年以上の長きに渡って使ってきた旧鉄筋校舎の幕を閉じました。使っている分にはさほど年季が入った感じはしませんでした。大雨のときには雨漏りをしたり、電気設備が壊れたりしていたので、建替えていただき有難く思います。終業式の朝、出勤すると校舎内のエアコンが暖房にならず、いくらやっても冷房になってしまいました。出勤した職員で何とかあと1日もってくれ、といろいろと試してようやく暖房に変わり、最後の1日も子どもたちにとって居心地の良い環境をつくることができました。

今日からは真新しい新校舎での学校生活が始まります。この新校舎はどの子どもも学びやすい環境になるような配慮がたくさん工夫されています。校舎の特徴的な構造として、校舎を真上から見ると「井」の文字のような構造になっています。漢字と同じように、真ん中は吹き抜けで、正方形になっています。そこは中庭になっており、その中庭をガラスで囲んで自然光が廊下に入るようになっています。そして、その正方形の周りを緩やかなスロープが1階から3階まで螺旋状に配置されています。車いすの子ども友達と一緒に階を上がったたり下りたりすることができます。もちろん、エレベーターもあるので、必要に応じて使うこともできます。また、停電のときにも安全に素早く階下に降りられるような装置も設置されています。

校舎の真ん中にあるスロープを単に通路として使うだけでなく、学校生活の様々な場面で活用して二小の新しい特色としていきたいと考えています。スロープにはピックアップレールが設置されているので様々な掲示物を眺めながら、行き来することができます。また、集会委員会では1月の児童集会にスロープを活用した集会を計画しているそうです。そして、1階のスロープ付近には旧校舎で廃棄する予定だったピアノをもってきました。このピアノはいわゆる「街角ピアノ」のように子どもたちが自由に弾けるといいなと考えています。そして、その周りの階段やスロープに人が集うようになるといいなと考えています。

また、各階にはだれでもトイレがあり、1階には全て個室仕様の男女兼用トイレも設置されています。一般的な教室では、教室の外の廊下側にもものかけることができるフックがあります。新校舎にはこのフックがありません。どの子どもも安全に廊下歩行ができるようにするためにフックは設置されていません。そのかわり、教室内のロッカーが従来のロッカーよりもずっと大きくなっていて、各自がそのロッカーにランドセルだけでなく体育着や絵具、習字道具、裁縫道具などをしまうことができるようになっています。

その他にもどの子どもにも学びやすい環境がたくさん工夫されています。この新しい校舎で新しい国立第二小学校の歴史を紡いでいきたいと考えています。子どもたちからもたくさんアイデアをだしてもらい、その実現に向けて学校全体で一丸となって取り組みたいと思います。

そして、今日から第2期の工事がスタートします。次は旧校舎を解体し体育館・コミュニティ棟の建設になります。

